

## 平成26年度 第1回学校評議員会 議事録

日時：平成26年7月3日（木）

14：00～16：00

場所：瓊浦高等学校会議室

### 出席者

学校評議員（4名）

河野 英雄 氏 金谷 氏 篠原 順子氏 濱浦 氏

学校関係各分掌長（14名）

校長 副校長 教頭（2名） 事務長 教務部長 生徒指導部長 就職指導部長 進学指導部長  
環境美化部長 保健部長 入試広報部長 学年主任（1・2・3年）

#### （1）開会の辞（副校長）

#### （2）校長挨拶（校長）

320名の入学生。全校生865名でスタート。高総体優勝卓球男子。バドミントン、ハンドボール準優勝。ほとんどのクラブがいい成績を狙えるいい学校。卓球九州第3位。今年度から中国から留学生を受け入れた。来年度から期待できる。3年遠征は自分の進路に向けて頑張っている。色々なご意見をいただいたものを反映し、形にできるものは形にしてきた。本校の学校運営に対して、評議員から忌憚のない意見をよろしく願いいたします。

#### （3）評議員紹介（副校長）

#### （4）平成26年度本校の経営方針について（校長）

##### ・学力向上の実践

わかる授業の展開と授業の改善、教育課程の見直し、個に応じた習熟度に別の細やかな指導を実践する。学び直しができる環境づくり、やる気のある生徒を伸ばしていく。

##### ・教職員の資質向上

市生涯学習課などから講師を招致し、研修会を多く設定する。先進校の視察、研究授業をできる体制づくり行う。本校職員を宇久高校、川棚高校へ派遣する。

##### ・心と体の健康づくり

部活動（全員部活動制）や学校行事を通して他を思いやる心を育み、いじめを許さない環境づくりを行う。また、本校独自に教育相談員を雇用し、様々な生徒の支援に努める。

##### ・開かれた学校づくり

郷土の歴史や文化の学習について、生徒が主体的に学べるよう内容の精選と充実を図る。長崎学、ハタづくり、亀山焼の制作を総合学習で実施する。また、地域の行事・祭り等には積極的に参加し、地域との連携を深める。

#### （5）本校の特色ある取り組みについて（各分掌長）

（庶務部）

快適な環境づくり、H26年度から修学支援金制度の変更があったので、滞りなくいくように活動していく。

- ・環境整備予定
- ・グラントイレブース取替工事
- ・総合体育館2皆LED照明取替工事
- ・耐震診断・・・3年生棟、管理棟（耐震診断対象物8棟完了予定）

- ・変化に対応した確実な事務処理

今年度より就学支援金制度の大きな変更により事務手続きも変更。複雑化したため錯誤などがないよう、正確な事務処理を行う。

(教務部)

- ・授業がわからない生徒に対して学年で工夫して学習体制を作っている。授業中の巡視の開始で学力の向上をはかる。教員自身も研修へ参加、また公開授業の実施。
- ・出席率の向上と皆勤者の増加を目指す。
- ・開かれた学校づくりとして保護者地域との連携を深める。

(入試広報)

- ・学校見学会を昨年度と同じ規模で実施する。
- ・中学校訪問の際にパワーポイントで学校紹介を行う。
- ・本校の魅力を外部に伝えるために マスメディアを活用し、VPAなどのキャッチフレーズの定着を図る。

(生徒指導部)

- ・生徒会との連携が取れるものは連携して実施する。登校時、生徒会を中心にあいさつ運動を実施している。指導がいきわたらないときは個別指導を徹底していく。

(就職指導部)

- ・職業観の醸成、働くことへの意識づけを図る。1，2年生から、就職への関心を高めるために、情報誌の発行を行う。また、2年生対象に進路ガイダンスを実施すると共に、本校の卒業生による講話を実施し、現場の生の声を生徒に届ける。
- ・高卒者に求めるものはなにかを学習させ、早期離職を防ぐため働くことへの意識づけを深める。
- ・入社試験の集团的ディスカッションへの対応を考える。

(進学指導部)

- ・家庭学習の充実について、各分掌と連携して対策を実施する。夏秋に学習合宿を夏秋に実施。3年生だけでなく、1，2年生にも参加を呼びかける。進学就職がぶれないように就職と連携しながら指導。
- ・進路のしおりを就職進学まとめて発行する。
- ・個々に合わせた進路決定への対策を行う。

(環境美化部)

- ・「きれいな瓊浦」の実現

曜日別に環境美化委員で活動実施。学校敷地内よりも、学校周辺地域の清掃を行う。

(保健部)

- ・健康状態に異常があれば専門医に相談し改善を図る。
- ・不登校生徒、相談部利用生徒の早期発見に努める。
- ・献血運動10月に実施する。

(第1学年)

- ・320名の新入生。中学校と高校の違いがまだ分かっていない生徒が多い。基本的な生活習

慣の確立を図る。

- ・毎週月曜日に朝集会（学年集会）を実施し、当たり前のことを当たり前にする人間づくりを目指す。
- ・問題や悩みを抱える生徒を早期発に努め、カウンセラーと情報交換して粘り強く指導を行う。
- ・授業規律の確立。関心意欲を持てる授業づくり。習熟度が低い生徒への学び直しを図る。

（第2学年）

- ・生徒に対する目標だけではなく学年団の教職員間での目標としても認識をもつ。
- ・各クラスから生徒会役員希望者が多数出ている。保護者との結びつきが強くなり、風通しがよくなっている。各担任が、成功談失敗談を共有し、高めあう体制作りを目指す。

（第3学年）

- ・前年度からの指導の効果もあり、進路決定へ向けて、真剣に考え行動できる生徒が増えてきた。
- ・いつでも相談・面談できる環境づくりを行う。その日に起こったことはその日に解決指導できる体制を確立する。
- ・体育祭、瓊浦祭へ向け、新しいものを作り上げていくためのリーダーの育成を目指す。
- ・基礎学力の確立のため、生徒自身に模試のプランニングから始め考察まで行わせる。
- ・ワンストップあいさつ運動の実施。多くの生徒が理解し実施する生徒が増加している。
- ・全員で卒業記念品制作し、充実、感動し、自信を持って卒業できるように指導していきたい。

#### （6）特色ある学校づくりについて学校評議員からの主な意見

- ・情報化社会で衰えてきているコミュニケーション能力を高める教育を行い、能力個性に合わせた自己実現のためのサポートをしてほしい。
- ・個性を生かして就職進学をしていく体制作りをしてほしい。
- ・長崎の伝統ある「瓊」の字の意味を生徒たちが理解し、自分の高校に誇りを持てるような学校にしてほしい。
- ・服装の乱れは良くなってきたが、周りの住民はよくみているので、それを自覚して行動できるような指導をしてほしい。
- ・部活動をはじめ、自分の高校に誇りを持ち活動する生徒の姿を社会に見せることで、瓊浦高校に行きたいという生徒を増やすことができるのではないか。
- ・高総体で高成績をおさめるすばらしい学校だと感じた。
- ・長い歴史を持つ高校であるので、品格のある高校であってほしい。
- ・人としてどう生きていくのかをしっかり学ばせ、真心を持って行動できる人間性を培ってほしい。また自分が人に見られているからという考えではなく、自分がどうありたいかという思いを持って行動できるような生徒であってほしい。
- ・定員を大きく上回る入学者がいるということは、保護者から信頼されているということではないか。学問を極め人間性を養い叱咤激励しながら指導をしてほしい。
- ・学校もきれいになり、2・3年前とは違う明るいイメージに変化した。最近の子供は気がつか

ないことが多いので実際に体験させて気づかせることが必要。

- ・全員の部活動制の体制が素晴らしい。社会に出て必要なことは部活動で学ぶことが多い。部活動で学べる上下関係などもあるので、全員の部活動制の体制を大事にしてほしい。

#### (7) 閉会の辞 (副校長)